



▲出羽海部屋夏合宿（令和元年）



▶笹川新橋に建てられた看板



笹川諏訪 大神の土俵

諏訪大神境内の南側に、相撲の神様「野見宿禰命」の石碑があります。この石碑は、天保水滸伝で名高い笹川（岩瀬）繁蔵が、天保13年（1842年）に建てたものです。その横には、大相撲の名門出羽海部屋、笹川夏合宿10周年記念碑「心技体」が、並んでいます。

碑の前には、鉄骨の屋根が整備された本格的な土俵がある。



奉納相撲

境内の土俵で行われる、秋季大祭の奉納相撲は、いつから始まったかは定かではありませんが、碑が建てられた天保時代には、盛大に行われていたことがわかっています。繁蔵や勢力富五郎が、江戸

ります。土俵は、昔からありましたが、現在は夏合宿を応援する「笹川出羽海後援会」が主となり、管理しています。

わたしが案内します /



東庄町観光ガイドの会
海上 義治さん

国技である相撲は、笹川地区の歴史にも大きく関わりがあります。今回のぶらり歴史めぐりは、特別号として相撲についてご案内します。

（東京）相撲の千賀ノ浦部屋に入門していたことで、笹川地区と大日本相撲協会に交流関係ができました。近代には、奉納相撲のために同協会より、優勝旗が贈られています。

奉納相撲は、江戸時代から明治、大正、昭和中期までは、地方力士が中心で、そこに地元の青少年が参加していました。米が豊作だった年には、大相撲力士を招き、奉納相撲を行っていました。

昭和後期からは、県内外駐屯地の自衛隊員が中心とな

問 東庄町観光ガイドの会
☎080-8757-4750

会員募集中です！





▶(右の写真) 諏訪大神の碑、(左)の写真を 観光会館に飾られている優勝旗



▶(右の写真) 昔の諏訪大神土俵、(左の写真) 秋季大祭ちびっ子相撲(令和元年)

り、町内の「ちびっ子」、大相撲力士を招いて行う形になりました。現在でも、7月最終土曜日の秋季大祭は大盛り上がりです。
※過去2年は新型コロナウイルスのため縮小して開催。



出羽海部屋 夏合宿

日本相撲協会の出羽海部屋の笹川夏合宿は、毎年8月に2週間実施されています。平成13年から令和元年まで、19年間連続で行われてきましたが、令和2年以降新型コロナウイルスの影響により中止となっています。20周年記念を目前にしながら、今年の開催も未定のままです。

出羽海部屋との関係

昭和60年、秋季大祭(当番区大木戸)の奉納相撲に、出羽海部屋の鷲羽山関など3人の力士に来ていただきました。その後も、大木戸区の有志と鷲羽山関との付き合いが続ぎ、10代目出羽海親方を襲名した時には、襲名披露祝賀会を笹川地区でも開催しました。
このような関係から、笹川地区で出羽海部屋の夏合宿を



笹川 繁蔵

天保水滸伝の主人公。笹川の侠客。少年時代は、田舎相撲が強く、江戸相撲の千賀ノ浦部屋に1年ほど入門していた。

受け入れることになりました。合宿が成功すれば、相撲ファンが増え、奉納相撲もますます盛んになるだろうと、賛同者が集合して、「笹川出羽海後援会」が結成されました。
合宿の運営費は、後援会費と協賛者の寄付などで、10周年までまかなってきましたが、11回目からは、町からの助成金も活用されています。
合宿は、大木戸区集会所と、新町の青年館に分かれて宿泊し、毎朝諏訪大神の土俵で稽古を行っています。
夏合宿は、回を重ねるごとに、県内外からの相撲ファンが訪れ、売店なども設ける盛況なイベントとなっています。
特に、力士に抱っこされる「赤ちゃんの土俵入り」は、申し込みも多く、現大関の御嶽海関が来られた時も、にぎや

かな土俵入りとなりました。
また、毎年合宿中には、東庄病院をはじめ、近隣の老人ホームなどに、力士が慰問したり、夏のイベントに参加したりして、町民との交流も盛んに行っています。
このように、奉納相撲や、出羽海部屋の夏合宿は、笹川地区にとって夏の風物詩であり、まさに「わが町に相撲がある」と言えます。
今年の秋季大祭の奉納相撲は、弓取式のみ行う予定です。また、同日赤ちゃんの泣き相撲も併せて行う予定です。